

外国留学生 体験記

Das isch di Schwiiz!

僕の生活で1番悩んで、1番楽しくなったのは言語。到着後の1ヶ月間はドイツ語の研修があり、そこでドイツ語の基礎知識を勉強した。それでも、留学生同士の会話は常に英語で、今まで勉強した英語は予想通り使えるものではなかった。

学校が始まって、友達と話す機会が増えると、1番の壁になったのはスイスドイツ語だった。スイスの方言はとて強く、北部のドイツ人には理解できないほどのだ。友達がその都度標準ドイツ語で説明してくれて、会話の流れを切ってしまうたりして、コミュニケーションの障害になっていた。学校の授業はほぼすべて標準ドイツ語だけど、一歩街に出れば標準ドイツ語を喋っている人はいない。

どっちの言葉を喋ればいいのか分からなかったときに、友達が言ってくれたのが

「標準ドイツ語はスイス人にとっては外国語で、ドイツ人はスイスドイツ語を理解しないくせに、自分たちは標準ドイツ語を勉強しなきゃいけない。学校で使う言葉なんだから好きじゃない」

それを聞いて、わからないことは極力「Was hasch gseit?」(な



電気・電子システム工学科3年
あせい たくろう
浅井 拓朗
| 留学先：スイス Winterthur
| 学校名：Winterthur
Kantonsschule Im Le

んて言ったの?)と質問して、現地の言葉を理解できるようになっていった。そうしたら、学校でも地域のクラブでも話す人が増えて、スイスの人々がどんな考え方をもっているかがより明確に分かった。

1番印象的なのは、スイス人は愛国者だということ。街のいたる所に国旗があり、アルプスの自然に誇りを持っている。周辺のドイツ、フランス、イタリアの大都市とは違った大きすぎず、のんびりした街。雄大な自然のアルプス。多くの人が週末にハイキングに出掛けて、その時間を楽しんでいる。

1年に満たない少ない時間を自分なりに楽しんで、学んだ。周りの友達からは全然変わらないと言われるけど、変わる原動力をスイスの生活は僕にくれた。

ちなみに、今では僕も標準ドイツ語が嫌いです(´o´)



壁

くらはし かすまご
環境都市工学科3年 倉橋 一将
| 留学先：アメリカ Muncie, Indiana
| 学校名：Muncie Central High School

視覚障害を抱えた僕が留学を決意した理由、それは「自信を持ちたい」だった。今まで障害をコンプレックスに、全く自分に自信がなかった。だから僕は、一度日本を離れ、留学という大きな壁を、一人で乗り越えてみたかったのだ。自信を得るために。

色々な期待や不安を胸に、僕はアメリカのインディアナ州へ旅立った。そこは信じられない程の田舎だった。住宅は密集しているものの、ふと気づけば辺り一面トウモロコシ畑である。見るもの全てが新鮮で、これから始まる未知の生活にわくわくしていた。ホストファミリーがベジタリアンであったことは僕を非常に悩ませたが、とても優しい人達だった。僕の障害を最もよく理解してくれ、僕の住みやすい環境を作ってくれた。学校も非常に協力的だった。しかし、

ここはアメリカ。見えない時、補助が必要な時は、自分から主張しなければ助けてくれない。何も言わなければ普通にできていると判断される。全て自分から積極的に言わなければ、彼らは動いてくれない。しかし、もし主張すれば、非常に温かなケアをしてくれる。これがアメリカの文化である。

友達は意外とすぐにできた。僕の学校には日

本語のクラスやクラブがあったため、唯一の日本人である僕はとても人気があった。毎朝おはようございますと生徒たちが僕に声を掛けてくれる。何より嬉しかったのは、みんなが温かく僕を迎え入れてくれたことだ。どのクラスでも最初に目が悪いことを伝えたが、みんな素直にそれを受けとめ、温かく接してくれた。

色んな人種や障害、意見をもった人々が共に暮らす国アメリカ、アジア人であり障害者である僕を差別する人はいなかった。とても多くの友人、先生、そしてホストに支えられ、僕はこの10ヶ月間、かけがえのない思い出を作り、自信を持って帰国した。これからの人生の中で大変なことは沢山あるだろう。でも今回の留学で得た自信を胸に、一つ一つの壁を乗り越えていこうと思う。



Merci beaucoup

すずき あつこ
電気・電子システム工学科3年 鈴木 温子
| 留学先：ベルギー(フランス語圏) Bertrix
| 学校名：Institut Notre Dame (Bertrix)

私はベルギーのAubyという小さな小さな村で約10ヶ月間生活していました。

フランス語圏にいましたが、フランス語はもちろん英語もろくに話せない私を家族はとて親切に受け入れてくれました。

私が言葉を探している間は何も言わず待っていてくれて、私自分からなかなか話しかけられない分、一緒にゲームをしたり、散歩に行ったり、旅行に行ったり、身をもって体験し、楽しめることをたくさん計画してくれました。

学校の友達も話しかけてきてくれる子が多く、友達はすぐにできました。でも、なかなか皆の会話を理解して、そこに入るのが難しく、学校でもそれたくさん話すことができませんでした。

2月ごろ、ボランティア活動体験があり、私はOxfamという店で働かせてもらいました。Oxfamは飢餓や貧困に苦しむ人達のために活動する団体で、貧富の差をなくして、平等な世界の実現のために活動しています。その団体が活動の一部としてやっている、アフリカの人達が作ったアクセサリーや小物、寄付された古着などを売っている店で働いていました。一緒に働いているボランティアの人やお客さんたちとコミュニケーションをとるために、フランス語を話す機会も増えて、人と話すのがすごく楽しくなりました。伝えなくちゃ、

聞きとらなくちゃじゃなくて、普通に会話を楽しめるようになりはじめたのは、この仕事をはじめたおかげだと思います。

それからは学校でも家でも冗談を言いあったり、笑ったり、とても充実した日々でした。

この10カ月間には、ほかにもいろんな人との思い出がたくさんあります。この経験を通して得たものはたくさんありますが、今ははっきりとはわかりません。でも、きっとふとした瞬間にベルギーでの生活、お世話になった人たちのことを思いだすでしょう。その時はベルギーでの経験が私を助けてくれているんだらうなと思います。

ベルギーでお世話になった家族、友達、ご近所さん、日本で支えてくれた友達、AFSのスタッフの方々、家族に感謝したいです。

ありがとうございました。



たくさんのありがとう!!

おかもと だいせ
建築学科3年 岡本 大樹
| 留学先：デンマーク Odense
| 学校名：Midtlys Gymnasium

オーデンセの駅に着き、ホストファミリーを目の前にして緊張している僕に対して、笑顔とハグで温かく僕を迎えてくれた。「今日から新しい生活が始まるんだ。頑張らなきゃ!!」と思い、荷物を運んでくれるホストファミリーに「Mange tak!!」(ありがとうございます)と試してみる。するといきなり笑い始め、笑顔でこう言った。「もうデンマーク語を話せるのかい?」そんな優しいホストファミリーに出会い、僕の長くても短かった留学生活は幕を開けた。

デンマークでの生活は驚きと感動の連続だった。学校では授業中にりんごを丸々食べていたり、ジュースを飲んでいたり。また授業のノートはみんなパソコンでとっている!!中にはゲームをやっている人も…。

そんなデンマーク人の大好きなものと言えば、スポーツ、クリスマス、パーティ、ビール!!

そして何よりデンマーク人は自分たちの国がとて大好き!!だからスポーツの応援なんかはものすごい!! ハンドボールの試合を観戦しながらテレビの前でめちゃくちゃ叫ぶ友達や家族。デンマークが負けるとちょっと不機嫌になるホストマザー。学校では授業を中止してまでテレビで試合観戦なんてことも(´o´)

国の天気はいつも悪く、風はとっても強い。そ

の上物価も税金もとても高いと言っている彼ら。それでもデンマークが大好き。そんな彼らの素晴らしい愛国心に僕はとても感動した。また、おしゃべりやジョークが大好きな彼らは駅や電車の中で、初対面でも気軽に話しかけてくれる。そして僕がデンマークに留学している理由や自分のデンマークでの生活について話すと、とても喜んでくれ、応援してくれる。そしてそんな愉快で愛のあるデンマーク人たちを、次第に僕は心のそこから尊敬し、大好きになっていった。もちろんデンマークも。

僕にとってこの1年は本当に素晴らしく、一生忘れられないほど大切に、大きなものでした。

デンマークで僕を支えてくれたホストファミリー、友達そして何より日本の家族にたくさんのありがとうを伝えたいです。「Mange tak!!」

